

能美市商工会とのタウンミーティング

日 時 令和7年12月17日（水）15:20～16:35

会 場 寺井地区公民館 301会議室

参加人数 24人

1) 開会

2) 市長 市政報告

○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、2015年に10周年式典を実施した。また、2015年は北陸新幹線金沢開業の年でもあった。翌2016年にはマイナンバーカード制度が開始された。
- ・2017年はロシアシレホフ市との親善50周年、姉妹都市提携40周年の節目の年であった。
- ・2018年には夏の甲子園が100回目を迎え、「栄冠は君に輝く」の作詞者である加賀大介氏のタイムカプセルを掘り起こした。
- ・2019年に令和が始まり、2020年にはSDGs未来都市に選定された。
- ・2020年開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルスの影響で1年延期となり、無観客開催となった。能美市からはライフル射撃の平田しおり選手が出場した。
- ・2022年には成人年齢が18歳に引き下げられた。
- ・2023年は加賀立国能美誕生1200年の節目であり、様々な催しを行った。
- ・2024年には北陸新幹線の石川県内全線開業を記念し、「折り紙で作った電車の最多展示」に挑戦した結果、8万2,034枚でギネス世界記録に認定された。

○自然災害など

・2018年の豪雪、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震など、これまで様々な災害があった。豪雨災害では、仏大寺町の遣水観音霊水堂付近で土石流が発生し、能登半島地震では、津波警報による大渋滞や、緑が丘の市道が約30m陥没するなどの被害が出ている。

・今年は熊の出没が相次いでいる。

○市内の状況

・岩内工業団地では、東芝による2,000億円の投資が発表されている。また、TOPPAN(株)が400億円の投資を行うと昨日・今日の新聞に出ていた。TOPPAN(株)が社名変更を行い、日本国内で初めての進出先が岩内工業団地であった。

・いしかわサイエンスパークの企業誘致等がなかなか進んでいないが、成果を出せるよう取り組んでいる。

・和田山古墳群周辺には、防災センターや警察署、能美ふるさとミュージアムができた。ふるさと歴史の広場もリニューアルし、滑り台を1台増設して2台としたことで、土日には多くの人でにぎわっている。

・能美工業団地には日本ガイシ(株)が進出しており、新たに同面積の工場を建設するため、現在造成工事を行っている。

・能美東西連絡道路の拡張を進めているが、県道もあるため、もう少し時間がかかりそうである。

・能美根上駅も大きく変わった。また、能美根上スマートICが完成し、周辺にはビジネスホテルや飲食店ができた。当初想定より多くの自家用車やトラックが利用しており、ホテルの稼働率も良い。

・加賀海浜産業道路沿線の福島グランパーク内には、戦略的企業誘致により女性が多く働く企業も進出している。グランパーク内には保育園もあり、今後、総合商業施設もできる予定である。

・遠方の方もすぐにお参りに行けるよう、高速道路や空港、新幹線の駅に近い山口町に合葬墓を造った。

・公園整備も進めており、障がいがある子も利用できるインクルーシブ遊具を備えた公園を2か所整備した。また、民間が作ったアドベンチャーガーデンは、国造地区の大きな一つのポイントになっている。

- ・園舎の老朽化や幼児教育への要望を受け、保育園の民営化に取り組んでいる。公立保育園15園のうち、まずは福島こども園を民営化した。続いて湯野こども園、わかばみどりこども園が民営化で新園舎となった。現在は4園目となる福岡こども園の民営化を進めている。

- ・手取川宮竹用水土地改良区と治水協力協定を締結し、大雨警報が出たときには、宮竹用水を排水として使えるようにした。これによって、2022年8月の大雨と同じ雨量となっても、それほどの被害は出ないようになった。

- ・防災設備を充実させ、はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人口規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内が手薄になることから最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制とした。

○ふるさと能美市を知ろう

- ・能美市は東西16km、南北5kmのコンパクトな市で、山林面積が約40%を占める。
- ・県内19市町の中で、人口は6位、面積は下から6番目、人口密度は4位、工業製品出荷額は上から4番目、女性の就業率も4位である。人口当たりの外国人比率が1位であり、市内に約1,750人の外国人がいる。国籍別ではベトナム人が最も多く、次いで中国人、インドネシア人である。企業で働く外国人が多いことに加え、北陸先端科学技術大学院大学の学生がいることが背景にある。
- ・特産品は丸いも、ユズであり、たまねぎの生産量も多い。九谷焼、押し寿司など、多様な特産品がある。

○令和7年度予算編成方針

- ・自治体の勢いを示す指標の中でも人口が重要であると考え、能美市では事業・施策の7本柱、それを5つの方針・目的に置き換えて、全てが移住・定住の促進につながるよう取り組んでいる。
- ・能美市では自然動態はマイナスである一方、社会動態はプラスであり、自然減を社会増でカバーして、現在は人口が微増している。
- ・合計特殊出生率が全国・石川県で低下する一方、能美市は上昇している。「子どもを産んでみたい」「子育てしやすい環境である」と思う人が増えてきたことがこの結果にあら

われてきているのではないか。

- ・高齢化率は少しずつ増えている。団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年代をどうするかが日本全国で課題になっている。市内には100歳以上の方が37人いる。内訳は男性3名、女性34名である。

- ・市税が大変好調であり、要因として企業誘致の好調による固定資産税増、人口増、賃金上昇などが挙げられる。令和元年に初めて90億円を超えて、令和4年に最高額、令和6年も90億円を超え、令和7年はさらに増となるのではと思っている。

○防災減災対策の強化

- ・行政の最大の役目は、市民の生命と財産を守ることである。
- ・地震被害想定に基づき、避難物資の備蓄を進めている。今年5月に公表された新想定では、避難者数が従来想定約2,000人から約3倍に変更された。避難所や避難物資の準備を進めている。

- ・本庁舎に防災・機能強化施設を建築する。水害時に災害対策本部が支障なく開けるよう地下にある電気設備を1階に移すとともに、大災害時に派遣者等の受入れや避難物資を管理する場所の確保と避難所設営担当の教育委員会を本庁舎に移すために、新しい施設を本庁舎の横に建築する。季節の風景を楽しめる交流スペースも作り、市民の皆さんに気軽に来ていただけるようにするほか、職員の打合せスペースや休憩場所としても活用する。

- ・能美市立病院が老朽化している。また、線路の西側に位置していて、緊急搬送時に支障があることから、能美市立病院の在り方検討委員会を立ち上げ、病院をどうするか検討を進めている。

- ・通学路の安全を確保するため、ゾーン30やゾーン30プラスを市内に導入してきた。今度は、辰口中央小学校エリアで、道路拡張等を行っている。

- ・市内で交通事故が増えており、市の職員が運転する車は午後4時以降のライト点灯を徹底し、事故防止に取り組んでいる。

- ・県内や市内で特殊詐欺が多い。SNS型詐欺や警察官を名乗るケースもあり、高齢者だけでなく若い人も被害にあっている。石川県警から「安全安心・広報インフルエンサー」に任命され、取り組みをブログ等でPRしている。また、詐欺撲滅大使として、ケーブルテレビの「GO! GO! PR」に出演し注意喚起を行っている。

○インクルーシブシティの深化

・市内公民館にWi-Fiを整備し、デジタル公民館として様々な取り組みを進めている。例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室、若い世代はeスポーツ体験、子どもたちはChromebookを持参して学習などで公民館に来てもらう。さらに、子どもが学習で分からない点を高齢者や子育て世代に教わる、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞く、といった多世代交流を公民館でできないかと考えている。

・オンライン診療にも取り組んでいる。慢性疾患のある方が通院せず、公民館でオンライン診療を受け、薬が手元に届くようにする実証をまずは粟生町、次は山口町で進めている。

・ライドシェア「ノルノミ」の実証実験を国造地区周辺で開始した。また、商品代金にプラス500円で自宅まで商品を届けてもらえるスマート物流も開始したが、両事業とも利用者が少ない。サービスをパッケージングし、サブスクリプションとして利用者を増やせないかと検討している。

・石川県にはID-L i n kという電子カルテのシステムがあって、能登半島地震のときに能美市へ避難した方がID-L i n kに登録してあったことから、能美市でも薬をもらえたり、透析を受けたりすることができた。万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに薬がもらえるように電子カルテの準備を進めている。また、カルテを共有することで、検査結果を他の病院でも確認できるようになったり、緊急搬送時等にも必要な情報を取り出せるようになったりするが、診療情報等にはデリケートな情報も含まれるので、どこまでどの情報を誰に開示するか、きちんと整理しながら、電子カルテの共有化を進める必要がある。

・子どもや保護者、ご家族の皆さんに気軽に相談しに来てもらい、ワンストップで対応できるようサンテの2階に子ども相談ステーションを開設した。また、不登校児に対応するため、教育センターをサンテの後ろにある生活支援ハウスに来年移す。子ども相談ステーションと教育センターが一体となって、フォローしていく予定である。

・石川県が寺井高校に特別支援学校を整備する予定である。小松特別支援学校への通学に時間がかかるという声を聞き、県に要望を出したところ実現したものである。

○知名度・魅力度の向上

・20周年記念事業として、金沢21世紀美術館でのみのぐいのみ展を開催し、大盛況であった。

・毎年、中学2年生を対象に「ようこそ先輩」と題して先輩が講演しているが、今年は20周年を記念し、私が講演を行った。中学生に市内に欲しい店を聞くと、ファストフード店、コーヒーチェーン店などの要望があった。

・20周年記念事業として、8月に実施したNHKラジオ体操の収録では、開始30分前の午前6時に約1,400人が集まり、主催者からお褒めの言葉をいただいた。

・和気の岩ドッグランをリニューアルした。犬が遊ぶ場所を従来の約3倍の大きさに広げるとともに、小型犬と中・大型犬のエリアを分けた。犬の水飲み場や、トイレスペース等も設置し、大変多くの方で盛況である。

・北陸鉄道能美線跡の健康ロードもリニューアルし、10/25の完成記念式典のウォーキングイベントで約16km歩いた。同日の夜には、のみふる古墳まつりで古代衣装を着て歩き、この日の歩数は過去最高の2万7,475歩だった。

・10/26には「なんでも鑑定団」の収録があり、多くの方から鑑定依頼の申し込みがあった。来年テレビ放送されるので、ぜひ見ていただきたい。

・先週、ゆかりのプロミュージシャンによるコンサートがあった。次の土曜日に松本薫さんに講師に来ていただいて、男女共同参画シンポジウムを開催する。このシンポジウムで20周年の事業の締めくくりとなるので、商工会の皆さんにもぜひ来ていただきたい。

・のみでん広場の車両を能美根上駅へ移設し、無人コンビニとして活用する計画である。おそらく全国に同様の事例がないので、人気が出るのではと思っている。また、能美根上駅に看板広告を作る予定であり、掲載主を募集したところ全て枠が埋まった。

・能美市内に小売店がすごく増えている。令和6年に12店舗、今年は10月末までに7店舗増えており、特に飲食店が多い。魅力的なお店が増えると、若い人たちが集まる。

・辰口フラワーハウス跡地周辺には動物園やアドベンチャーガーデン等があるため、特産品を集めて紹介でき、雨天時にも食事や休憩ができるような「道の駅」的機能を持つ施設を整備したいと考えている。

・人財を確保するため、奨学金の返還を支援する制度を作った。また、市内の企業と高校生をマッチングする企業ガイダンスを開催している。例年、高校生の参加者は200人程だったので、県内の能美市民が通う高校全てを自ら訪問しPRしたところ、参加者が倍増し、大盛況であった。

・地元の学校である寺井高校の志願者数が伸び悩んでいるので、学校給食センターで作る給食を寺井高校の希望者に提供する制度も作った。保護者の負担が少なくなり、子どもた

ちも美味しくて温かな給食が食べられると大変好評をいただいている。

・宅地造成も行っており、和光台五丁目を売り出しているが、大変人気である。先日、イベントで3つの会社がショールームを披露した。和光台周辺は眺めも良く、周辺には動物園やドッグラン、アドベンチャーガーデン等もある。最近、家を建てる費用が高騰しているので、安い土地に家を建てるのは良い選択ではないかと思っている。

○エコシティ能美を創造

・2013年に排出したCO₂を2030年までに半分とするよう様々な取り組みを行っている。例えば、農業がカーボンニュートラルに寄与することから、農業振興にも積極的に取り組んでいる。

○持続可能な行財政改革

・市内の公民館や上下水道管や道路、看板等が老朽化している。市内には小中学校が11あるが、築50年以上が面積比で35%を占めている。まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しく造った。

・職員の給与も人事院勧告により増えてきている。建物だけでなく空調や照明も順次更新していかななくてはならず、財源をいかに確保するかが能美市最大の課題となっている。

・財源確保のため、ペーパーレスやフリーアドレスに取り組み、3年間で約1,700万円の経済効果が出ている。また、能美市誕生20周年の節目に、抜本的な経費削減に取り組むため、全事業・施策の見直しを行うタスクフォースチームを立ち上げた。30年、50年と続くふるさと能美市を皆さんと一緒に築いていきたいと思っているので、ご協力をお願い申し上げます。

3) 質疑応答、意見交換

質問・意見

【参加者】福島グランパーク内の総合商業施設や辰口フラワーハウス跡地の道の駅的機能を持つ施設について、どこまで話が進んでいるのか。

【市長】福島グランパークについては、民間事業者が建築を行うが、能登半島地震や原材料費やエネルギー価格の高騰の影響で工事が遅れている。一方で、企業誘致が好調で人口増に伴う需要も増えており、民間事業者の建築意欲も維持されているため、もうしばらく待っていただきたい。辰口フラワーハウス跡地については、整備構想検討委員会を立ち上げ、市民も交えて協議を進めている。あわせて、石川県と連携し、辰口丘陵公園内に全天候型の大型遊戯施設の整備も検討している。あの周辺一帯を一体的に開発できるよう全体を見ながら、できるだけ早期に整備したいと考えている。

4) 閉会